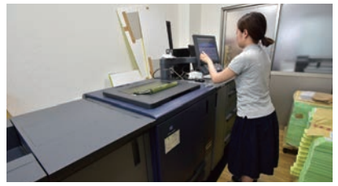
87

菊田印刷 株式会社

紙以外の素材への印刷に、小ロット、低価格で対応

高性能プリンターで絵馬を製作

にぎわいや幸運をもたらす絵馬



フルカラー複写機で小ロット対応

事業内容

幅広い印刷メニューを取り揃え

昭和38年に大阪市内で創業。チラシやパンフレットなどの広告印刷物をはじめ、事務用品や販促物、ウェブデザインなどの制作を通して、顧客の営業活動や日常業務を支えてきた。印刷設備の社内導入を積極的に進め、オフセット印刷やシルクスクリーン印刷、Tシャツや帽子、マグカップなどにプリントする特殊印刷、製本加工など幅広いメニューを取りそろえる。

デザイナー陣が提案営業を後押し

企画・デザインから編集、刷版製作、加工、納品までの社内一貫体制を敷く。印刷設備の導入による作業の効率化とともに、1名の社員がさまざまな業務をこなす“仕事のマルチ化”を進め、組織力のアップを図ってきた。男女の社内デザイナー6名を擁し、世の中の空気や時代の流行を先取りしたビジュアルを打ち出すことで提案型営業を展開するのも強みだ。

補助事業

立体印刷の受注確保が課題

最近は、絵馬やゴルフボール、スマホケース、ボールペンなど、立体的な製品に絵柄や文字をプリントする“立体印刷”の対応が営業戦略上の課題となっていた。これまでは自社設備を持たないため外部業者に外注して対応してきたが、コスト高の要因となっていた。

さらに立体印刷に限らず、ほかの印刷物も小ロットでの注文が増加している。外部に印刷を委託して対応しようとした場合に、顧客が希望する単価や納期に応えられず、受注を逃すケースも増えていた。

高性能プリンター導入

そこで、これらの課題を克服するために、平成28年度「ものづくり補助金」を活用して紙以外の素材表面に印刷できる高性能プリンターを導入。併せて、印刷版を必要としないためコスト低減が図れるオンデマンド印刷機を導入した。

具体的成果

営業活動の幅が広がる

高性能プリンターはUV硬化インクを使用し、金属や樹脂、木材、皮革など、素材を選ばずに印刷できる。厚紙へのプリントも可能で、商品パッケージの印刷などにも活用できる。顧客からの依頼に対応するだけではなく、企業向けにさまざまな提案ができるようになり、溝口章仁社長は「営業活動の幅が広がった」と手ごたえを語る。同業他社との差別化が図れるため価格競争に巻き込まれることなく、収益も確保できるようになったという。

可変データを利用した印刷も

オンデマンド印刷機は印刷版の製作が不要なため、従来比約20％のコスト低減を達成した。また、印刷後の乾燥工程もないため、これまで7―10日を要していた製作日数を3―4日に短縮することができた。さらに、可変データを利用した印刷が可能になり、例えば10，000枚のチラシで、QRコードの部分だけを10，000通りの異なる内容にしてほしいという注文にも応えられるようになった。

設備導入により、小ロット対応やコスト低減、短納期化が進められたのを受け、今後はインターネットを通じた個人客の需要取り込みに本腰を入れる。

今後の戦略

「ものづくり補助金」を有効活用

同社が「ものづくり補助金」を活用して設備投資を行うのは2回目。平成26年には抜き金型により紙の輪郭を連続で切断する「ロータリーダイカッター」を導入。商品パッケージやカードなどの製作を手がけている。誰の名刺が入っているのかがわかるように、中身と同じデザインを印刷した名刺納品用の箱などが好評を得ている。

設備導入が社内活性化や士気向上に

顧客からシルクスクリーン印刷をしてほしいと要望があったのをきっかけに、事業化の調査・検討を始め、シルク印刷機を3台導入したのは平成22年。周囲は参入に反対したというが、デザイナーを中心に社内でアイデアを練り、顧客に提案すれば勝算はあると溝口社長は判断した。今や「日本だけではなく、台湾や米国、中国など世界中から注文をもらっている」という。

溝口社長は、新しい技術や印刷設備の導入で、社内の議論が活発になり、社員の自主性や士気が高まる点でメリットとして大きいと感じている。「新しいプリンターや印刷機の活用方法に磨きをかけ、さらに需要を掘り起こしていきたい」と意気込む。

菊田印刷 株式会社

代表取締役社長　溝口 章仁

〒561−0845　大阪府豊中市利倉3−10−34

TEL. 06−6866−0003　FAX. 06−6866−0005

資本金／10，000千円　従業員／21名

主な取引先／官公庁、大学、放送局、保険会社など

主な保有設備／オフセット印刷機、オンデマンド印刷機、シルクスクリーン印刷機、製本・関連加工機など

主力製品／パンフレット、カタログ、チラシ、ポスター、リーフレット、封筒、挨拶状、名刺、シール、新聞、冊子など

短納期　企画力　小ロットOK　量産OK　海外対応　試作OK　連携力

印刷業界をけん引する存在に

代表取締役社長 **溝口 章仁**

単に、素材表面にインクを乗せるだけではなく、そこにいかに付加価値を盛り込んでいくかを常に考えてきました。今後も、新しいことに挑戦を続け、印刷業界の先頭を走れる会社にしていきたいと思っています。

http://www.kikuta-print.co.jp/

取材を終えて

経営の根幹に人との出会いやつながり

取材中、溝口社長は「お客様、社員、取引先、家族。ずっと人に恵まれてきた。これが私の財産だ」と強調していた。また、「社員皆が同じ方向を向いて頑張ることが大事」とも話す。仕事に対する取り組み方についてのチェックシートを毎月、社員に記入してもらい、その結果を人材育成や社内の働き方改革につなげる活動も続ける。人との出会いやつながりを中心に置いた経営こそが、菊田印刷の強みだと感じた。